

本名御神楽岳

M・T

期 日：2020年7月23日（木）

コース：三条林道末端→八乙女の滝→杉山ヶ崎→御神楽岳避難小屋→本名御神楽岳→御神楽岳避難小屋→杉山ヶ崎→八乙女の滝→三条林道末端

参加者：M・T

報 告：



三条林道に向かう途中で、只見川に立ち上る朝霧を撮影。

下山したら、夢幻峡の渡し船を見たいと考えていたが叶わなかったが、立ち上る川霧は見る事が出来た。

本名ダムから三条林道を走ること30分で登山口着。

今回はこの山が目的なので、事前調査もしてある。役場に林道の状況を確認した時に普通乗車

では、厳しいところが有ると言われた、確かに道は、デコボコだったが四駆なので問題はなかった。

蛭は居ますかと思わず聞いてしまったが簡単に「います」と回答されびっくり。

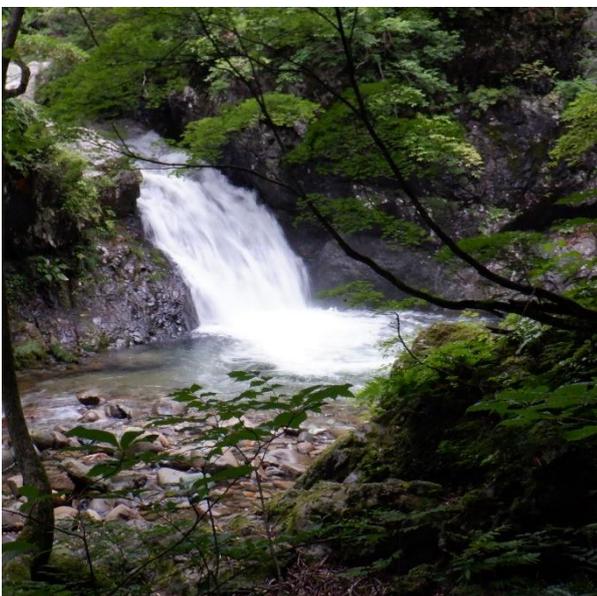
登山前夜、蛭ファイターを靴・洋服に散布しておいた。

登山開始後、

平らでは有るがぬかるんだ道を20分も行くと八乙女の滝が左手に現れた。



足場のない鎖場を通過





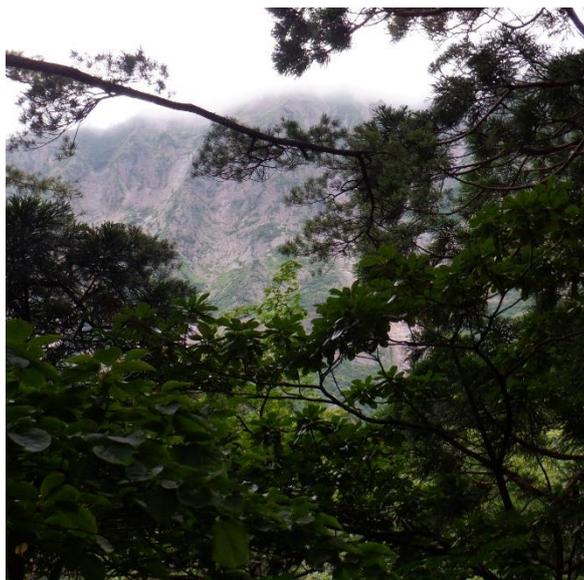
霧来沢沿いに高度を上げたり下げたりしながら、
数回渡渉し尾根取付きに至る。

この渡渉点にはザイルが渡してあり、復路に思い
浮かべることになる。

山アジサイは静かに咲き、
オオカメノキの実は赤く色づいていた。



杉山ヶ崎迄の急登は辛いもので、
休み休みの登りとなった。
樹林の隙間から見る荒々しい山肌。





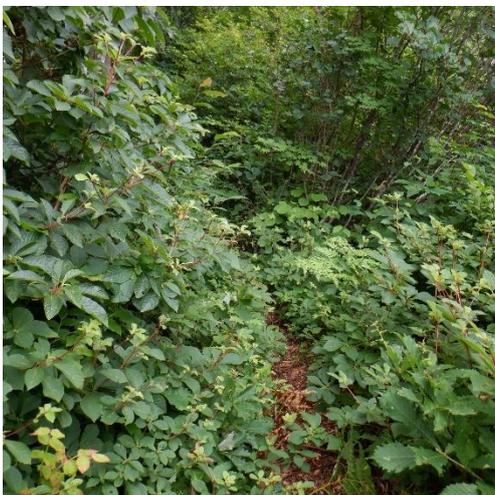
滑落しないように用心深く通過。

狭い登山道は両サイドから枝が張り出し、靴・洋服は濡れた。

3時間10分もかかってやっと杉山ヶ崎に到着。
コースタイムは2時間なのに。



荒々しい断崖絶壁ばかり目に付く。



相変わらず狭い登山道というよりは、木立の中を歩く



振り返って眺める。
右寄り真ん中辺り中央ピークが杉山ヶ崎

何時までも、姿が隠れる登山道。



鎖場現れる



続く鎖場





姫小百合の種（？）

やっと、御神楽避難小屋着。
入り口には鍵がかかっていた。
どうして？帰宅後、確認したが古いので、固かったのだろうとのこと。鍵がかかっているには避難小屋の役には立たないのでそうだろう。



避難小屋から山頂までは片側が切れ落ちた
痩せ尾根なので慎重に用心深く歩いた。
2本のストックを右手に持ち、左手は木の
枝を掴んで歩く。登山道は、ダブルストック
を使用する幅は無かった。
やっと着いた本名御神楽岳山頂。

本名御神楽岳の山頂から御神楽岳へのルート。
小さなアップダウンの繰り返しの様だが、私には無理なので、止めて、山頂でゆっくりする。
生憎、雲がかかっている山座同定は無理だったが、晴れていれば360度の展望が得られる。
幸い蛭は歩き初めに丹沢より太目を1匹見ただけで被害は無かった。復路、30分間スコールのような大雨に遭う。渡渉地点のザイルが有り難く思い浮かんだ。
最近2回の山歩きでスコールの様な激しい雨を経験した。
雨の降り方も変わってきている。渡渉の有る山は注意深く計画したいと考えながら、往路をゆっくり下山した。

